

# デジタルアーカイヴ研究

## *Digital archive research*

竹内 創 TAKEUCHI Hajime

(芸術学部デザイン領域)

### テーマ

「先端メディア表現」分野における最新技術の研究・リサーチ及び制作発表  
「先端メディア表現コース」が開設されたことを踏まえ、昨年度に引き続きデジタルを駆使した  
ものづくりの技術や表現方法を調査し、研究することをテーマにしている。本研究はこの分野に  
おいて記録映像制作（ビデオコンテンツ、3D ヴァーチャルツアー等）を実施して公開し、その知  
識を集約させることで、教育への土台を固めていくことを目的とする。

### 意義

今年度開催された展覧会などで展示内容に沿った撮影を試み、デジタルアーカイヴとしての撮影・  
編集を行い、公開する。

この2年間、展覧会が余儀なく閉館、延期されることによって観客が直接展覧会場で作品に触  
れることができない状況を新たな可能性を見出す機会と想定し、展覧会開催中と終了後にもヴ  
ァーチャルに体験できるコンテンツとして制作することは社会的に意義あることと考える。

また撮影作業に学生を協力させることにより、教育的なアプローチの方法として教育プログラ  
ムとして還元することを探る。

### テクニック

3D スキャンカメラ『Matterport Pro 2』を撮影に使用し、実在する空間を撮影・360度スキャ  
ニングし、パソコンやスマホサイト、VR 機器で、バーチャル（VR）体験を可能にする。

「3D ウォークスルー」とは、撮影された画像を基に構成された3D空間を、あらゆる角度から自  
由に歩き回ることができ、その場にいるような臨場感を体感できるものである。

その3Dウォークスルーを使用することにより、現地に来場することが困難な人たちにも、実際  
に展示空間を歩いているかのように、ヴァーチャルに画面上で自由に移動し、鑑賞することがで  
きる。

また画像の動きもシームレスでスムーズであり、操作も容易で直感的に操作できる利点がある。

それに加え3Dモデル空間のあらゆる箇所に、作品解説、画像、動画、URLリンクなどを設置し、  
作品情報を追加することができる。また同時に空間の中で距離を計測できるので、作品のサイズ  
など鑑賞後の再確認としても使用できる。

### 俯瞰ビュー

カメラは（3Dスキャン）撮影時に赤外線を照射し、測量したデータを3D化することで建物内部  
を立体化させる。この機能により、室内3Dを俯瞰で自由に操作することが出来るので、展示空間  
や立体作品を、より直感的に理解することが可能になる。

3D化された空間や作品ブースもそのまま配置される俯瞰イメージは、広さ、構成なども一目で  
わかりやすく、閲覧者の視線に立ってイメージしやすくなる。

## オプション機能

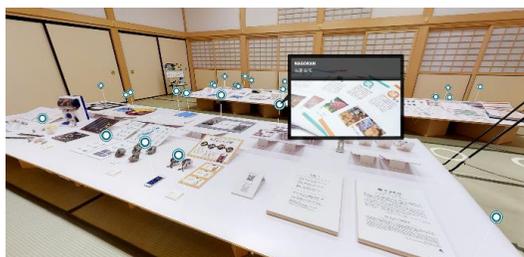
URL、テキスト、画像、動画などの詳細説明を3Dウォークスルー化した空間内のあらゆる場所に埋め込むことができる。閲覧者は展覧・作品情報を操作しながら画面上で確認することができる。

また、3Dウォークスルーの閲覧は、マルチデバイス（PC、タブレットPC、スマートフォンなど）に対応しており、どこからでも好きな時間に、自分のペースで3Dウォークスルーが体験ができる。

## 「3Dウォークスルー」を制作した展覧会

「ナゴヤ展」とは特別史跡・名古屋城の本質的価値をデザインを通して伝える展覧会である。名古屋芸術大学 デザイン領域ヴィジュアルデザインコースの学生が調査を行い、文化、歴史、産業など様々な内容の新しいデザインを企画し、提案したものである。

2020年コロナ禍の中で、ナゴヤ展に向けた制作が始まった。その当時は、平常通りに現地で調査することが難しく、物の価値や性質を深く知ることが困難な状態であった。しかしそんな時でも、開催される「ナゴヤ展」に足を運んでくれる人たちには名古屋城の魅力を新しい視点で伝えられることを目標として行われた展覧会である。



「ナゴヤ展」3Dウォークスルー（2020）

名古屋芸術大学卒業・修了制作展において同じタイミングで公開された「WEB卒展2020」（3Dウォークスルー）の制作と公開。

2021年1月23日～4月11日に京都市京セラ美術館の新館「東山キューブ」で開催された展覧会「平成美術：うたかたと瓦礫デブリ 1989-2019」の3Dウォークスルーを制作公開した。

展覧会のクレジットに「協力：名古屋芸術大学 デザイン領域 先端メディア表現コース 准教授 竹内創、講師 加藤良将」と表記されている。

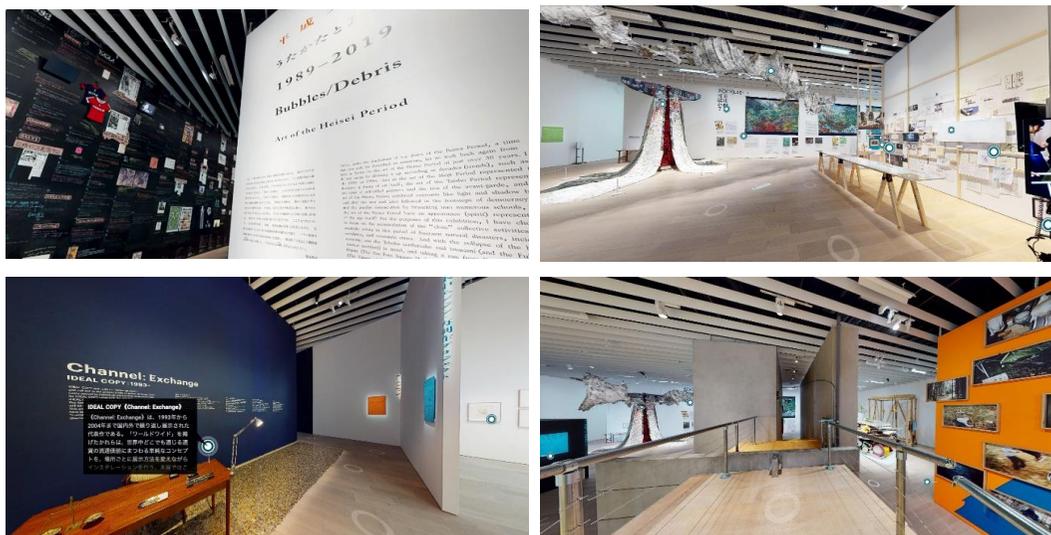
## 平成美術：うたかたと瓦礫デブリ 1989-2019

2021年1月23日～4月11日の期間、京都市京セラ美術館の新館「東山キューブ」で1980年代後半より現代美術について批評活動を行なっている美術評論家の榎木野衣を企画・監修に迎え、独自の視点で選んだアーティストたちの集合的活動にフォーカスしている。平成年間（1989-2019年）の日本における現代美術をそのアーティスト集団によって総括する展覧会として開催された。

### 展示構成

平成に活躍した14のアーティストグループおよび集合体（コレクティブ）の代表作が一堂に会する展示構成となった。そのほか資料展示などを加え、社会的イベント、経済的事象や自然災害といった社会情勢と共に、美術がどのような変遷をたどってきたかをまとめた平成年表が展示された。

本展は大きく3つの時代で区分され、会場では作品群やブースが点在し、回遊するように鑑賞できる構成になっている。（展覧会資料より）



「平成美術：うたかたと瓦礫デブリ 1989-2019」展 3Dウォークスルー（2021）

### 3つの区分と参加アーティスト

1989-2001 ベルリンの壁崩壊／湾岸戦争／バブル経済崩壊／阪神淡路大震災／地下鉄サリン事件

Complezzo Plastico（1987～1995、大阪／東京）

IDEAL COPY（1988～、京都）

テクノクラート（1990～1996、東京）

DIVINA COMMEDIA（1991～、京都／神戸）

2001-2011 アメリカ同時多発テロ事件／イラク戦争／新型肺炎 SARS／リーマンショック

GEISAI（2001～2014、東京、神奈川、埼玉、台北、マイアミ）

Chim↑Pom（2005～、東京）

contact Gonzo（2006～、大阪）

東北画は可能か？（2009～、山形）

DOMMUNE（2010～、東京）

カオス＊ラウンジ（2009～、東京）

2011-2019 東日本大震災／福島第一原発事故／拡大するテロリズム／多発する自然災害  
パープルーム（2013～、神奈川）  
突然、目の前がひらけて（2015～、東京）  
クシノテラス（2016～、広島）  
國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト（2016～17、京都）  
人工知能美学芸術研究会〔AI 美芸研〕（2016～、東京）

2021年4月3日～7月10日に京都 ddd ギャラリーで開催された展覧会の3Dウォークスルーを公開した。

展覧会の「協力」としてクレジットされている。

名古屋芸術大学 デザイン領域 先端メディア表現コース 准教授 竹内創、講師 加藤良将

### 京都 ddd ギャラリー第228回企画展

ヘルムート シュミット タイポグラフィ：トライ トライ トライ

2021年4月3日～7月10日

京都 ddd ギャラリーのHPより本展覧会とヘルムート・シュミット氏をテキストで紹介する。

―戦後、世界的な影響力を発揮したスイス・タイポグラフィの潮流を受け継ぎ、大阪を拠点に独自の活動を展開したタイポグラフィ、グラフィックデザイナーのヘルムート・シュミット。国内外のデザイナーに大きな影響を与えたその実践の全体像を提示する、初の大規模回顧展です。

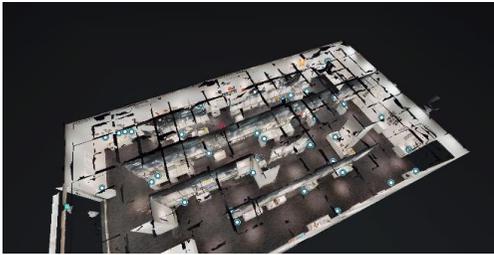
シュミットの初来日は1966年。バーゼルでエミール・ルーダーらに学び、文字を組み合わせることに心躍らせていた24才の若者は、ルーダーの教えに続くものを日本の地に求めました。一度はヨーロッパへ戻りましたが、1977年に再び来日。以来、2018年に逝去するまで、情報伝達とフリーフォルムという二元性と向き合いながらデザイン活動を行い、商業作品も個人的な作品も、アプローチは違えど分け隔てなく取り組みました。

本展は、シュミットの有名無名の作品やその制作プロセスを、彼がその探求のなかで出会った人々の面影とともに辿るものです。最後までごく個人的であり続けた、人間味あふれるヘルムート・シュミットのタイポグラフィの軌跡をご覧ください。―

### ヘルムート・シュミット

1942年オーストリア生まれ。西ドイツで植字工見習いを終了後、スイスのAGS（バーゼル工芸学校）で、モダンタイポグラフィの泰斗エミール・ルーダーや、ロベルト・ビュヒラー、クルト・ハウエルトのもとで学ぶ。

バーゼル、西ベルリン、ストックホルム、モントリオール、バンクーバー、大阪、デュッセルドルフで働いた後、1977年より大阪在住。大塚製薬の医薬パッケージやポカリスエット、IPSAや資生堂MAQUILLAGEのブランドアイデンティティをはじめ多数のデザインを手掛ける。同時に、『タイポグラフィック・リフレクション』などの自主出版活動も行う。2000年より2010年まで神戸芸術工科大学にて、2006年から1年半はソウルの弘益大学校にて教鞭をとる。2018年逝去。



「ヘルムート シュミット タイポグラフィ: トライ トライ トライ」展 3D ウォークスルー (2021)

## 展覧会ムービーについて

この映像は 2021 年開催の京都 ddd ギャラリー展覧会「ヘルムート シュミット タイポグラフィ: トライ トライ トライ」のために制作されたインタビュー記録映像である。

海外も含む関係者による「ヘルムート シュミットについて」の動画制作に撮影と編集で関わった。

出演：原研哉（デザイナー）、白井敬尚（グラフィックデザイナー）、室賀清徳（編集者）、フィヨドール・ゲイコ（グラフィックデザイナー）、ヴィクター・マルシー（グラフィックデザイナー）、ラース・ミュラー（グラフィックデザイナー・出版者）、フィリップ・トイフェル（グラフィックデザイナー）、阿部宏史（グラフィックデザイナー・本展企画）、ニコール・シュミット（グラフィックデザイナー・本展企画）



「ヘルムート シュミットについて」(2021)